

趣味について考える



中込 修

NAKAGOME Osamu

(株)三水コンサルタント
海外室

1. はじめに

私は趣味が多い方だと思う。ただし一度始めた事は、頻度は少なくともなるべく長く続けるようにしている。登山は、学生時代に少しやり国内の部署に移動になった時、約30年ぶりに再び始めたという状況である。登山用具にも格段の進歩があり、富士山にナイトハイイクに行った時は、私だけ昔の黄色い光で、皆LEDの白く強烈な明るさのライトで驚いたものである。それと趣味についてはあまり真剣に考えることはしない方だ。やはり「ねばならない」と思ってやると長く続かないのではと思っているからだ。まあ、その意味ではいい加減の方が長く続けられるものだ（いい加減には、非常にいい意味もある。最後まで読んでみてください）。

さて、他の趣味についてだが、神道は2003年から続けている。居合を8年経験し、その後新陰流に出会い5年ぐらいい経ったと記憶している（この辺もいい加減だ）。この他にもバイクツーリング、日曜大工、旅行等を楽しんでいる。今回は、私が属する「新陰流正伝上泉会」について考えた雑感を以下紹介したい。なにがしかのアイデアになれば幸いである。

2. 新陰流について

新陰流は、今から約450年以上前に上泉伊勢守信綱によって創始された日本を代表する剣術流派の1つだ。正伝上泉会は、新陰流の流祖上泉伊勢守信綱に敬意を表し、その輝かしい功績を世に広める事を目的として設立された。同時に新陰流を技術的にも文化的にも創流当時の形で正しく継承していくことに焦点を当てて活動している。会員は、流祖から2代目継承者である柳生石舟斎へ伝えられた「本伝（鎧を着た実践の中で確立された技）」の習得を最終目標に練習をしている。基本的に東京道場の練習は、土曜日と月曜日の週2回小学校の体育館を借りて行っている。

3. 言霊から見た新陰流

日本には、言霊とか数霊というすばらしい考えがある。たとえば「日本」の言霊は「二本」で、一本では偏るので日本はいつも二本立てでなっているという。一部の一本化された西洋の国と比較すると日本は豊かな文化が伝承されていると思うのは私だけだろうか。以下言霊を通して自分なりに新陰流を考えてみたので紹介したい。

長い歴史を持つ新陰流であるが、正伝上泉会はその名の如く「正しく伝える会」である。「正」という言葉は、正月に象徴されるように始まりとか原点を意味する。つまり言霊では「正＝一で止まる」ということである。「一」とは、始まりとか根本とか、崇高な意味がある。五十音の始まりは、「あ」だが、伊勢神宮の祭神「天照大御神」も「あ」から始まるのも偶然ではない。たしか「一から二が生じ、二から三が転じて、三は全てを生じる」という思想があったと思う（中国）。「三」は非常に神聖な数字（三位一体説、三人よれば文殊の知恵、三法印、日本の神話における創造の3素神等枚挙に暇が無い。駆けつけ4杯とは言わない！）だが、この会の将来もホップ・ステップ・ジャンプ（＝1⇒2⇒3 これも3段階だ）であるのではと思っている。3について語り





だすと紙面が足りなくなるので、この辺にするが、皆さんも3にまつわる言葉を時間のある時に考えてみて下さい、神聖な数字である事に気づくと思う。婚礼の儀式においても四四九度とは言わず三三九度で「めでたし、めでたし!」という訳である。因みに九は3の倍数であり、陽の極まりを意味し、六が陰の極まりを表す。

さて脱線はこれくらいにして本題に戻ると、正伝の伝は「人+云う」,だからこそ「人」(=伝える人, 伝えられる人)が重要だと気づく。自分も「崇高な一で止まる」べく、正しい道を得たいと思うが、これには相当な努力と知識が必要だと気づき始めている。

話は変わるが停滞していたヨーロッパにルネッサンスが興ったように、正伝上泉会も一種の「ルネッサンス=復興」であるのではと思う。ルネッサンスの場合は、紀元前5世紀に繁栄したアテネのような自由なるものへの復興を目指したが、この会で何を復興するかは、この道に入ったばかりの私には勉強不足でまだまだ分からないが、先輩方(皆伝者)の指導の下自分なりに考えて行きたいと思っている。

学ばせて頂く立場の自分として一番重要なのは素直さだと考えている。素直の「素」という漢字は、「素=主+糸」である。つまり、主から糸が垂れている。これは主なるものにもとづいているということである。主とは、自らの中の「主」であり、「宇宙創造の主神」という意味でもあると考えられている。あるいは崇高な原点(上泉伊勢守)とも言えるのかも知れぬ。「主」なるものからスーと真っ直ぐに垂れている糸をそのまま受け止めること。それが素直な心であり、生きて行く上においてこれほど明快なものはないとの思想も神道(惟神の道)にはある。因

みに、受験生で一番学力が伸びるのは、一般的に「素直な子」と言われているのも偶然ではない。

素直な態度は重要であると分かったが、それを築く土台の全ては足元の生活の中にあるのではと感ずる。いくら崇高な思想を持っていても足元が揺らぐようであれば成り立たない。その意味で生活は足元(根源)だと感ずるし、そう述べられている。この漢字も「生活=生かして活かすと書く」、やはり言葉はすばらしい。自分が現実に暮らしている振る舞い等々、つまり足元の生活にあたる部分がきちんとできるようにと思って日々生きるのが人間の本质であるとも言われている。全てを生かして活かす事を目指してみたいものだ。これゆえに新陰流の本質の一つは「活人剣」なのかも知れぬ。

入会して5-6年目となったが、「正伝上泉会」に巡り会え、たまにしか行けないが、いろいろな事を学び、気づく事はすばらしい事だと感じている。これからも本来の意味のいい加減(よい程度、適度)をモットーとして長くいろいろな趣味を続けたいと思っている。

